

羅針盤			方策	7月実施 第1回点検・評価			12月実施 第2回点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価 (前期/後期)	外部アンケート等 (前期/後期)	改善策	自己評価 (前期/後期)	外部アンケート等 (前期/後期)	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 豊かな人間性、想像力を育成する教育活動を行っていますか。	①自ら積極的にあいさつをしていると自己評価している生徒が90%以上である。	①教師から積極的なあいさつに心がけ、継続的なあいさつ運動を展開し、家庭・地域でも同様にあいさつができるようにする。 ②教師が共に清掃に取り組みながら、生徒の美化意識を育む指導を行い、学校外でも実践できるようにする。 ③良好な学習環境や人間関係を整える。 ④英語に関する各科目の授業を英語で行うだけでなく、英語を用いる機会や場面を多く設ける。 ⑤関連行事の工夫・改善に努め、生徒の意欲や関心を高める。 ⑥学校行事、各教科等で、我が国や世界の国々の文化や伝統に対する理解を深める学習を行う。 ⑦テストの結果分析を通して生徒の理解度を計り、理解度に応じた指導を行う。 ⑧30人学級に加えて、英語や数学で少人数指導を行い、個に応じた指導を行う。 ⑨前期課程では個に応じた学習指導を、後期課程では個に応じた進路指導を、それぞれ充実させ生徒の進路目標を明確化させる。 ⑩学習時間調査等の結果分析を有効活用し、指導に役立てる。 ⑪年度当初に授業改善に係る研究テーマを設定し、研究テーマに沿った全体研修を年2回以上実施する。 ⑫授業改善の一環として、研究授業・授業参観を制度化する。 ⑬教師からの声掛けや面談により、生徒と触れ合う機会を多く持つ。 ⑭日頃からクラス内で協働する機会を増やす。 ⑮「保健だより」や保健委員会活動による啓発活動を活性化させる。 ⑯部活動や委員会活動に取り組んでいる生徒が75%以上である。 ⑰いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	②意欲的に清掃活動に取り組んでいると自己評価している生徒が85%以上である。	B	A/A	現在の取組を継続しつつ、「心を開いて相手にせまる」という挨拶の持つ意味を理解し、より多くの教師が生徒に声かけできるように、あらゆる場面で行う。	B	A/A	「全ての基本は挨拶から」心を開いて相手にせまる」という挨拶の持つ力や意味を理解し、より多くの教師が生徒に声かけできるように、あらゆる場面で行う。
		③自分の学校が好きだと感じている生徒が85%以上である。		A	B/B	保護者による評価が低いので、PTAの力も借りて改善を図る。清掃は心身の健康にとって重要であることを認識させたい。	B	B/B	保護者評価が低く、家庭での環境整備が不十分と思われる。PTA運営委員会で取り上げてもらい、学校内外での環境美化意識・行動の向上につなげたい。	
		④英語や外国文化に興味を持っている生徒が90%以上である。		A	A/A	現在の取組を継続しつつ、奉仕活動等を通して生活(学習)環境を整備し、生徒が自身の可能性を広げることできる環境を整備していく。	A	A/A	生徒が自身の可能性を広げることできる生活(学習)環境を整備し、成功体験を通して自己肯定感を高め、学校への誇りを持てるようにしていく。	
	2 国際的なコミュニケーション能力を育成する教育活動を行っていますか。	⑤イングリッシュキャンプやスピーチコンテストなどの英語科行事や、海外修学旅行に満足している生徒が85%以上である。		A	A/A	現在の取組を継続しつつ、より良い授業を目指し改善を加えながら、より実践的なコミュニケーション場面や課題解決型の活動を増やし、実用能力を高める。	A	A/A	現在の取組を継続しつつ、4技能に加えて5領域目(発表力・伝える力)を意識した授業を行い、生徒の知的興味関心を引きつける取組を実践していきたい。	
		⑥全ての生徒が、学校行事や授業等で我が国や世界の国々の文化・伝統に触れる経験をしている。		A	A/B	各学年において、授業と行事を関連付けながら、興味関心や意欲が高められるように行事の改善や工夫をしていく。	A	A/B	より実践的で効果的な行事内容となるように、教科内・学年内で検討していきたい。	
		⑦日本や世界の文化・伝統を大切にする教育活動を行っていますか。		A	A/A	現在の取組を継続し、各行事、各教科ごとに日本及び世界の文化・伝統と関連させた内容を、常に取り上げるよう心がける。	A	A/A	各科目、各教科ごとに日本及び世界の文化・伝統に関連した授業内容を工夫、充実させ、現在の評価を維持できるように努める。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 基礎・基本の確実な理解を図る指導を徹底していますか。	⑧少人数指導に満足している生徒が85%以上である。	A	A/A	現在の取組を継続しながら、年2回実施する授業アンケートの結果も加え、個々の生徒の理解度の正確な把握と個別指導を充実させる。	A	A/A	定期考査問題、課題内容等を検討する機会を設け、授業アンケートの結果も踏まえ、生徒の理解の度合いを更に細かく把握し、個々の指導にフィードバックする。		
		⑨学習動機が明確な生徒が85%以上である。	A	A/A	指導する教師間で少人数指導のメリットを再確認し、生徒の状況に合わせて指導を改善していく。	A	A/A	現在の取組を常にチェックする目を持ち、少人数指導の理想の形を追求していく。		
		⑩家庭学習の習慣が身に付いている生徒が80%以上である。	B	A/A	生徒が生きて学ぶ授業をめざし、全職員が生徒の発達段階(基礎期、充実期、発展期)に応じた授業づくりにつとめる。	B	A/A	5年間にわたるSGH諸活動の成果をふまえ、全ての教科の中でSGHの目標を達成する学びを展開する「教科のSGH化」にむけた授業改善を進める。		
	5 生徒の学習意欲を喚起する指導が充実していますか。	⑪すべての教師が、「言語活動の充実」「学び合い学習」「ICTの活用」等のテーマを設定し、授業改善に取り組んでいる。	B	A/A	生徒が自己有用感を感じ、かつ適切な負荷のかかる課題の課し方を教科・学年で検討する。	B	B/A	生徒が関心をもち、主体的に取り組む課題の課し方について、授業改善と関連させて全教科・学年で検討する。		
		⑫すべての教師が研究授業を年1回以上、授業参観を年2回以上実施している。	A	A	現在の取組を継続するとともに、深い学びを実現するための協働学習の実践方法についてさらに研究する。	A	A	現在の取組を継続しつつ、各自が授業アンケート結果等を踏まえてさらに授業形態・授業内容について研究し、工夫する。		
		⑬教師との信頼関係を築けていると感じている生徒が80%以上である。	A	A	現在の取組を継続するとともに、より効果的な研究授業および授業研究会の実施について検討する。	A	A	授業研究を行う際に、研究の視点やテーマを明確にして行うと共に、授業の定期的な外部公開についても検討する。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 生徒が良好な人間関係を築けるよう組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑭クラスの人間関係が良好だと感じている生徒が80%以上である。	A	A/A	現在の取組を継続しつつ、生徒の言動に注視し、「すべては生徒の成長のために」適切なタイミングで叱咤激励を行なう。	A	A/A	現在の取組を継続しつつ、生徒の言動に注視し、全職員で生徒情報を共有する。「すべては生徒の成長のために」迅速かつ適切なタイミングで叱咤激励を行なう。		
		⑮自分の健康について意識している生徒が80%以上である。	A	A/A	現在の取組を継続しつつ、互いの価値観を共有し、お互いに高め合える集団を目指していく。	A	A/A	現在の取組を継続しつつ、互いの価値観を共有し、違いを認め合い、高め合える集団を目指していく。		
		⑯部活動や委員会活動に取り組んでいる生徒が75%以上である。	A	A/A	タイムリーな健康関連情報提供をさらに充実させ、興味関心を喚起する。	A	A/A	学校医や養護教諭からの指導助言や生徒保健委員からの健康関連情報を、保健便り等によって、頻度をより高めて全校生徒に提供する。		
	8 生徒は健全で健康的な学生生活を送っていますか。	⑰いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	A	A/A	3年生から4年生にかけての部活動加入のスムーズな展開と4年次以降の部活動継続の声掛けを徹底するなど、現状の取組を維持する。	A	A/A	4年次以降の部活動加入率を低下させないための現在の取組を維持するとともに、委員会活動の活性化に向けた新たな取組を考える。		
		⑱＜前期課程＞自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が70%以上である。	B	A/	現在の取組を継続しつつ、いじめの定義を周知徹底し、いじめの認知を積極的に進めていく。その上で、「いじめは何があっても許さない」という姿勢を貫き、よりきめ細かい対応として生徒への面談等を実施し関係を密にしておく。	A	A/A	現在の取組を継続しつつ、いじめの定義やいじめ防止対策推進法等を周知徹底し、いじめの認知を積極的に進めていく。その上で、「いじめは何があっても許さない」という姿勢を貫き、よりきめ細かい対応として生徒への面談等を実施し関係を密にしておく。		
		⑲＜後期課程＞自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が80%以上である。	A	/A	＜基礎期＞生徒がこれまでの学校生活・家庭生活の中で果たした役割を再認識し、自己の特性を正しく理解・認識する指導を行う。 ＜充実期＞生徒が自己の特性をふまえ、グローバル社会に生きるWorld Citizenとして自らの職業を意識する指導を行う。 ＜発展期＞生徒が自ら進路目標を立て、自らの努力でそれを実現する「第一志望校、現役合格」の意識を確立する指導を行う。	A	/A	＜基礎期＞生徒一人ひとりが興味・関心を抱くテーマを自己認識し、自らの学習意欲を向上させる支援を行う。 ＜充実期＞生徒一人ひとりが自己の適性を認識し、将来の目標となりうる職業を意識する支援を行う。 ＜発展期＞文理分けや科目選択をふまえ、生徒一人ひとりが自己の学習計画を充実させる支援を行う。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 各学年の特性に応じた計画的な進路指導を行っていますか。	⑳子どもの進路希望を理解している保護者が85%以上である。	A	B/A	各学年が必要とする進路情報を精査し、学年・学級通信等の内容として保護者に向けて発信する。	A	B/A	年間計画に従い、2月に1.2年生生徒・保護者対象の進路講演会を実施する。		
		㉑学校からの進路情報提供に満足している生徒・保護者が80%以上である。	A	B/A	現在が高次接続改革期にあたることをふまえ、それに関する適切な情報を入手し、生徒・保護者に理解を促す。	A	A/A	各学年通信に学力推移調査等の結果を掲載し、各家庭で保護者と生徒が話し合うテーマを提供する。		
		㉒進路講演会や進路関連行事を各学年、年2回以上開催する。	A	A/A	学校行事や関連する情報に加え、授業の様子や志願者に対する情報等をタイムリーに更新することを心掛ける。	A	A/B	Webページの更新回数を増やし、画像等を活用し、学校の行事や授業の様子等をより積極的に情報発信し、Webページから情報を得ようとする側のニーズに対応できるよう努める。		
	10 生徒が将来の進路を選択するのに役立つ適切な情報や場を提供していますか。	㉓Webページを月3回以上更新する。	A	A/A	関係各部との連携のもと現在の取組を継続する。	A	A/A	様々な機会を捉えてながら保護者のニーズに応えられる行事が企画出来るように努力する。		
		㉔学校説明会や公開授業、授業参観をそれぞれ年1回以上実施する。	A	A/A	一斉メールの運用を適切に行うこと等により、保護者にとって有意義な情報が各部署から適切なタイミングで発信されるように努力する。	A	A/A	一斉メールのあり方を常に振り返りながら、必要な情報が過不足なく伝達出来るように引き続き努力する。		
		㉕学校と家庭との連絡が緊密に行われていると感じている保護者が80%以上である。	A	A/A	恒例行事として定着した感のある地域美化活動を引き続き実施するとともに、活動の事実を周知するように引き続き努める。	A	A/B	これまでの取組を効果的に継続し、引き続き活動の実態を周知するように努力する。		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 保護者や地域等との連携・協力が努めていますか。	㉖学校は、生徒・保護者による地域貢献活動を年1回以上行っている。	A	A/A	生活安全・災害安全のための点検を、職員と生徒、両者の視点からしっかりと実施する。	A	A/A	照明設備等、安全点検や学校評価で指摘された課題を解決したい。しかし、多くは予算が確保できるかどうかにかかっている。		
		13 生徒の安全に対する意識喚起に努めていますか。	㉗交通安全教室を年1回、防災訓練を年2回実施する。	A	A/A	現在の取組を継続しつつ、「交通事故は命に関わること」を念頭に、交通指導を通してより生徒が実感できる内容にしていく。	A	A/A	現在の取組を継続しつつ、「交通事故は命に関わること」を念頭に、より生徒が実感できる交通指導として本校のみならず県内の事故事例報告や傾向と対策を周知していく。	
VI 生徒の安全確保を図っていますか。	14 施設・設備の安全管理を徹底していますか。	㉘学校の施設・設備が整備され、安全であると感じている生徒・保護者が80%以上である。	A	A/A	安全点検結果を検証し、危険箇所の迅速な改善に努める。	A	A/A			